

令和7年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	歴史と文化の関係人口創出事業
事業主体 (連絡先)	栄村
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	879,000円 (うち支援金: 659,000円)

事業内容

長野県北部地震以降、文化財の保全活動を行っている地域史料保全有志の会への委託により、都市部の大学生・大学院生を誘致し、文化財の保全活動を通じて集落の祭礼や郷土食など、歴史や文化の体験と住民との交流による関係人口を創出し、地域文化の振興、コミュニティや地域経済の活性化など、多角的な地域づくりを進める。

また、新たな関係人口により地域住民が文化財などの身近な歴史や文化に触れることで価値を再認識するきっかけとする。

- ・学生ボランティアの募集・手配
- ・交流会の開催

事業効果

期間中に3回の保全活動を実施し、延べ34名の学生がこの事業に参加した。

文化財の保全活動を行いながら村内の集落が行う祭りや収穫祭といった地域行事にも参加をし、これまで関わりのなかった住民との交流の機会が生まれ、住民が文化活動に関心を持つきっかけとなった。学生らの参加により集落にも活気が生まれた。参加する学生も体験や交流を通じて地域の魅力を体感し、継続的に関わる学生が地域史料保全有志の会の運営に加わるなど、活動を継続するための体制が整ってきた。

参加者が増加したことで、村内の宿泊施設や商店などの利用にもつながり、閑散期の経済効果は大きい。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。(今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など)。

本年度で事業を継続するための母体の体制整備を進めることができた。今後は住民が事業への関心を高め、集落との関係を深めていくことで、対象者が卒業した後も継続的に関心を持つことができるよう活動を強化していくことが必要とされる。

また、事業期間中に多くの学生から関心を得られるよう、参加者の募集を進めるとともに、字補助事業終了後の運営体制の確立に向けて整備を進めるとともに、地域への経済効果が最大限得られるための開催方法を検討していく。



【集落交流の様子】

【目標・ねらい】

- ① 学生ボランティアの参加
- ② 地域住民との文化交流
- ③ 地域経済の活性化
- ④ 活動母体の強化

※自己評価【 A 】

【理由】

新たな取り組みにより多角的な地域づくりが促進された。多くの参加が得られ、継続的に参加する学生が多いことから、想定以上の効果を実感している。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある